

4. 「出会える・学べる 実践事例研究会」の開催

全国の優れた実践事例に数多く触れ、どのようなポイントで都道府県研修に組み込んでいくかを考える場として、「出会える・学べる 実践事例研究会」平成27年度強度行動障害支援者養成研修フォローアップ研修」を、平成27年9月25日に群馬県社会福祉総合センター（群馬県前橋市）にて開催した。都道府県研修関係者や行動障害者の支援実践者ら、全国26都県から102名の参加があった（写真1-3）。

(1) プログラムの概要

研修プログラムは、都道府県研修での【講義】実践報告の参考となり、また関係者（受講者）同士が積極的に意見交換を行える場とするため、「実践・事例報告」と「ポスター発表」といった、より直接支援と結びついた内容とした。

10:00-16:00 までの研修時間の中に、「実践・事例報告」を6本、「ポスター発表」を10本、その後、財団法人鉄道弘済会弘済学園長の高橋潔氏からの講評、というプログラムである（表5）。

表5 研究会プログラムと発表者及びタイトル

| プログラム | 講師・発表者、所属、演題 |
|-----------|---|
| 開会・挨拶 | 遠藤 浩 独法) のぞみの園 |
| 本会の趣旨説明 | 志賀利一 独法) のぞみの園 |
| 実践・事例報告 | |
| 1 本多公恵 | 社福) 滝乃川学園 題：行動にテーマのある京さん |
| 2 前田淳裕 | NPO) 夢 題：障害者支援施設との協働支援 |
| 3 井口賢一郎 | 社福) 鳥取県厚生事業団 題：強度行動障がいの方への支援 |
| 4 小野沢ハレル | 社福) 長野県知的障がい者育成会 題：新しい場所で安心して過ごすために… |
| 昼食・ポスター発表 | |
| 5 伊豆山澄男 | 独法) のぞみの園 題：実践・事例報告⑤ |
| 6 神田 宏 | 社福) 横浜まびこの里 題：強度行動障害のある方の重度訪問介護利用 |
| 講評・意見交換 | 高橋 潔 財団) 鉄道弘済会弘済学園 |
| まとめ・閉会 | 志賀利一 |

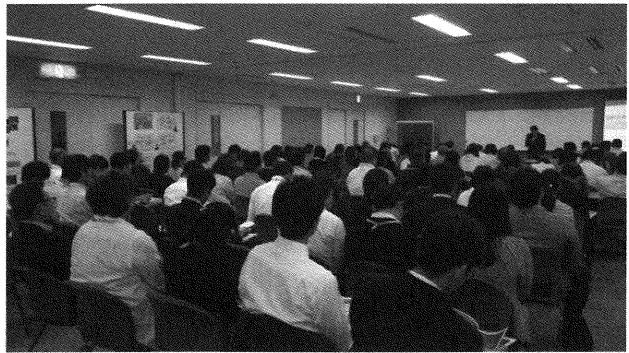


写真1 研修会場全景

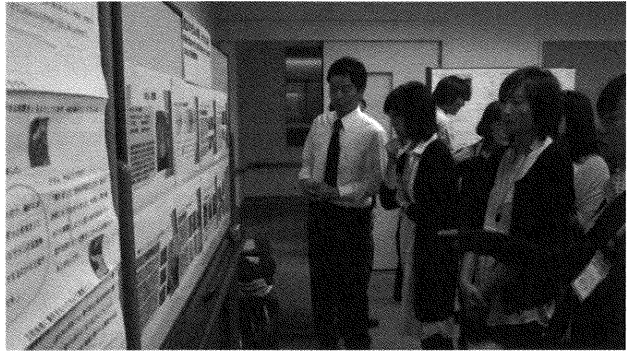


写真2 ポスター発表風景

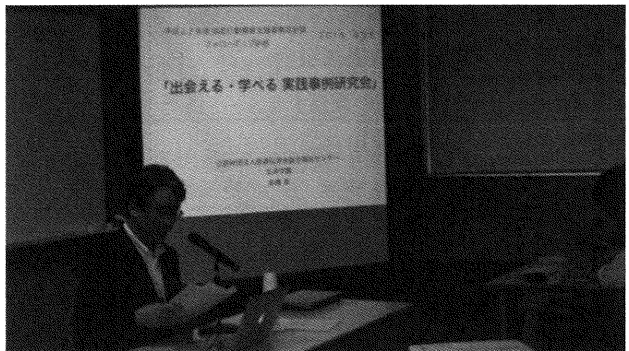


写真3 講評の様子

(2) 実践・事例報告とポスター発表

実践・事例報告（発表20分＋質疑応答10分）では、それぞれ厳しい行動障害がある利用者に対し、障害特性に基づいた根拠のある支援の実践が報告された。発表の中には、保護者と計画相談事業所、日中生活介護事業所、グループホーム、ヘルパー事業所（行動援護・重度訪問介護）が一堂に会した会議を平日の夜に十数回開催し、「本人の障害像の共有」を図った事例もあり、強度行動障害者支援における障害特性理解の重要性と、関係者間で情報の共有化を行う必要性、そして丁寧な（細やかな）支援の様子が報告された。

ポスター発表（表6）は昼食時間を長めにとり、その中で実施した。ポスターの前で発表者が内容を説明し、受講者は自由に発表者と質疑を行う。また、受講者同士がポスター内容について意見交換を行ったり、ポスターの写真を撮ったりする姿もみられた。真剣な表情や笑い顔など、ポスターの前で受講者と発表者の様々な表情が見られ、積極的な意見交換の場になった。またポスターはいつでも見られるため、報告・発表方法としてポスター形式の利点もうかがえた。

表6 ポスター発表一覧

| ポスター発表（発表者、所属、タイトル） | |
|---------------------|--|
| 角田明弘 | 社福）ついで福祉会 「強度行動障害へのアプローチの実践」 |
| 縄岡好晴 | 千葉県発達障害者支援センターCAS 「強度行動障害のある方の支援者に対する研修」 |
| 飯島尚高 | NPO）たん 「NPO 法人たん 実践事例 児童への支援」 |
| 中村 隆 | 社福）共栄福祉会 「成長期における軽度児童の支援」 |
| 川西大吾 | 社福）旭川荘 「強度行動障害支援者養成研修 6つの支援のポイント解説」 |
| 安田剛治 | 社福）ぐんぐん 「一貫した対応のできるチームを作り・・・の巻」 |
| 田口崇文 | 独法）のぞみの園 「問題行動をかかえる利用者に対する入所施設における実践事例」 |
| 村岡美幸 | 独法）のぞみの園 「強度行動障害のある人を対象にした生活の立て直し事業」 |
| 信原和典 | 独法）のぞみの園 「進化している日常生活用具」 「強度行動障害支援者養成研修の取り組みについて」 |

（3）講評の概要

パワーポイントで作成された資料をスライドに映しながら、実践・事例報告でのポイントの他、ポスター発表についても、それぞれ講評が行われた。

各実践・事例報告での講評では、6事例に共通する支援の考え方として、積極的行動支援（Positive Behavior Support:PBS）についての説明が行われた。そこでは対象者が表している行動をどのように考え

るのかといった「行動を観る視点」や、「行動障害の軽減や好ましい行動の獲得といった行動支援の目標として、その方の生活全般をしっかりと理解した上で、生活の全体的な質の向上に繋がる支援を行うこと。そして将来を見据えた視点が大切。」といった、支援の考え方について、発表者、受講者それぞれに向けて講評が行われた。

また「強度行動障害の支援と虐待のリスク」として、数十年前に弘済学園で撮影された映像を例に、拘束の考え方や「現実的な支援」について、丁寧な解説が行われた。映像は、自分で自分の顔を叩く刺激が止められず、泣きながら自分の顔を叩き続けている子どもの姿と、その子が肘に可動域を制限するような拘束装具をつけて生活している映像が映っていた。「（関係者間で）熟慮し、保護者と相談し事業所として出した支援方針。それでもまだ何か出来ることはなかっただろうか。」数十年前の映像を見ながらそう話した高橋氏の言葉からは、諦めないこと、悩み続けること、そして実直に支援に向き合うことの大切さが伝わってきた。

（4）受講者の感想

受講者の満足度は非常に高く、研修後のアンケート結果からも、満足度の高さがうかがえた。以下にアンケート結果の一部を抜粋した。

- 息の続く限り海に潜り冰山を観察していますが、今ひとつ観察すべきポイント、推測、次の一手に繋がりません。今後も学び実践していきたい。
- 実践・事例報告について現場で行われている支援が、息づかいのように自然な形で入ってきました。特別とか無理とかでなく、生活そのものを支援されていると感じました。だからこそ毎日毎日を少しずつで良いから、スタッフ一同、チームとして前向きにいきたいと思いました。
- 強度行動障害者への支援に対する意識が変わるきっかけとなりました。あきらめなければ何かが変わっていく。希望がもてました。

その他にも、「事例が多く参考になった。」、「また次年度も継続して実施して欲しい。」、「各都道府県でも、こうしたフォローアップ研修を行って欲しい。」などの感想が寄せられた。

5. 「平成 27 年度 強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）インストラクター反省会」の開催

「平成 27 年度強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）」のインストラクターを中心に反省会を開催し、同研修プログラム内容の振り返り、及び修正点等について検討を行った（表 6）。また、インストラクターが所属する都道府県研修の実施状況や、独自の取り組み内容（表 3）などについて確認し、都道府県研修開催時の留意点などについて協議した。

[日 時] 平成 28 年 1 月 21 日（木） 13:30-16:30

[会 場] アイーナいわて県民情報交流センター

表 6 インストラクター反省会参加者一覧

| インストラクター氏名 | 所属 |
|------------|------------------------------|
| 前田 淳裕 | NPO) 夢 発達障害者支援センター You Me |
| 沼山 重明 | 一社) プロップ |
| 長葎 康紀 | 岩手県発達障がい者支援センター“ウイズ” |
| 松本 亜希子 | 社福) フレンドショップいわて 虹の家 |
| 木村 英司 | 社福) 秋田県社会福祉事業団 高清水園 |
| 佐藤 泰昭 | 社福) 秋田県社会福祉事業団 阿桜園 |
| 田口 正子 | 独法) 国立のぞみの園生活支援部 |
| (事務局) | 国立のぞみの園研究部 志賀利一、村岡美幸、信原和典 |

(1) 指導者研修プログラム内容の振り返りと改善点

講義・演習の反省点、及び次年度指導者研修への改善点などを、以下に要約した。

【演習】強度行動障害とコミュニケーション

指導者研修では、演習の目的をしっかりと理解しているが、都道府県研修でも同様に理解してもらえるか。グループ毎の進行の違いにも留意が必要。

【演習】行動の背景と捉え方

受講者のベース（臨床経験や行動障害者支援の理解）が様々。演習を円滑に進行するためにも、グループ分けを行う時点で、配慮が必要ではないか。

【講義】構造化の基礎

例えば、最寄り駅から会場までの構造化された環境を例示として示すことで、より構造化のイメージが持ちやすくなる、また実感として理解できる。

【演習】障害特性の理解とプランニング I・II

例えば経験年数 5 年未満と 15 年以上の人、どちらに併せて言葉や情報を選び伝えればよいか悩んだ。また、演習になると経験年数の差が顕著に表れる。

【演習】記録に基づく支援の評価

新任職員を意識し、理解しやすいよう（かみ砕いて）話すことが難しかった。120 分のコマ、後半部分は集中力が途切れないような工夫が必要。

【講義】実践報告

20 分という短時間での発表。「分かりやすかった。」という人と、「もう少し詳しく聞きたかった。」という人と、感想が分かれていた。

その他、指導者研修全体を通して受講者から次のような意見が出ていたことが報告された。

意見 1

指導者研修開催当初（平成 25-26 年度）は、内容が「簡単すぎる。」といった意見が多く聞かれていたが、今年度の指導者研修では「もっと簡単な内容にしてほしい。」という意見が多数聞かれた。

意見 2

研修 2 日目の修了証を渡す際に、研修の目的などを話したが、「研修の目的や伝達研修であるということ、研修の初めに聞きたかった。」という意見が聞かれた。

(2) 都道府県研修の実施状況 - インストラクター及び事務局が所属する都道府県を中心に -

2015 年 6 月 10-30 日の期間で実施した、「都道府県における「強度行動障害支援者養成研修」実施状況に関する調査」から、都道府県研修の実施状況（予定含む）と研修に関する独自の工夫、及び都道府県独自の取り組み内容（北海道、栃木県、千葉県、東京都、三重県、大阪府、奈良県、和歌山県、鳥取県、高知県）について確認した。また、インストラクターが所属する都道府県での都道府県研修の現状と工夫した点、課題点などについて聴き取りを行い、次年度指導者研修改善の参考とした。以下に、インストラクターなどが所属する、青森県、岩手県、秋田県、群馬県での研修の工夫点や課題点について要約する。

青森県：
強度行動障害に該当する対象者は県外にいる状態。県内の人数把握が行われ、「いない」という認識になっている。
現在、県庁内で都道府県研修を行っているが、会場の関係で定員 70 人規模が精一杯。今後、大学での実施を検討中。
実践報告事例が、同じ事業所からしかでてこないという課題。

岩手県：
従来の行動援護従業者養成研修は中止し、強度行動障害支援者養成研修に一本化された。これまで行動援護の研修で講師を務めていた人は、都道府県研修の講師にはなっていない現状がある。

秋田県：
研修の構成を、「行動障害とは」を 1、2に「制度」、3「構造化の基礎」 4「支援の基本的な視点」とした。講義・演習それぞれのコマ同士の言葉や表現を合わせ、前のコマで使った資料を必ず 1 枚は入れて・・・といった感じで調整した。それぞれのコマとコマが繋がっているという認識を持ってもらい、この順番には意味がある！ということを理解してもらった。
午後の演習は眠くなるのでやめてほしいという意見がでた。
基礎と実践、4 日間のバックとして都道府県研修を実施。

群馬県：
基礎研修を 2 回、実践研修を 2 回開催。各 80 名定員。
講師は、A 園から 5 名、県内他事業所から 3 名、計 8 名体制で実施。実施にあたり、8 名を 2 チーム (A・B) に分け、講義・演習を分担した。また MSW (医療ソーシャルワーカー) に「強度行動障害と医療」を、家族からの提言を県自閉症協会の 2 人の親御さんに、実践報告 (60 分) を県内の事業所 1 箇所に依頼。その他プログラム内容についても、「研修の意図と期待すること」はポイントを絞ったり、「強度行動障害と制度」は基本的な流れは変更せず、サービス利用までの流れをより一般的なものへ変更したり、するなどの工夫をした。
受講者の中でゲームをしている者がいて、注意を行う場面も。

(3) 都道府県研修開催時の留意点など

以上、「平成 27 年度 強度行動障害支援者養成研修 (指導者研修) インストラクター反省会」での発言内容を基に、都道府県研修開催時の留意点などを、以下に整理した。

- 新任職員を想定し、理解しやすいよう、言葉や表現方法を工夫する。
- 写真や映像資料などを使い、イメージが持ちやすいよう工夫する。
- 必要に応じ、各講義と演習内容とで関連性が持てるよう、口頭もしくは資料中に補足する内容を入れるなどの工夫が必要。
- 行動障害者支援の経験の有無などにより、演習時のグループ内での発言や進行に差が生じる。
- 必要に応じ、職種や役職、経験年数などを配慮した、グループ分けの配慮が必要。
- 演習時は、各グループの司会を中心に、グループ全体で考えられるよう、配慮が必要。
- 受講態度が好ましくない者 (私語、ゲーム、無断欠席、遅刻) もいる。
- 必要に応じ、研修募集時と研修時に、文書や口頭等で禁止事項を周知するなどの対応が必要。

D. 考察

1. 都道府県研修の実施状況と課題点

2015 年度に各都道府県で開催された強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修) 修了者数は 7,768 人であった。2015 年 6 月に実施した同調査による基礎研修受講予定者数は 6,000 人程度 (人数未定で回答があった 14 都道府県を除くと受講者数 (予定) は 4,414 人) と、当初の予定者数より 1,700 人以上増加した。研修受講者数が大きく増加した背景には、受講者や事業所の研修ニーズの高さがあるほか、そうしたニーズへの迅速な対応を行った都道府県の課題意識がうかがえる。更に都道府県研修以外に、都道府県独自の取り組みとして、支援者養成を目的とした研修や相談支援などが少なくとも 8 都道府県で行われていることは、着実に強度行動障害者支援の基盤が整備されているといえよう。

ただし都道府県研修では、受講者によっては行動障害者支援の経験がなかったり、あったとしても経験年数に大きな開きがある、あるいは行動障害者支援に関する知識量に差があるなど、受講者の背景は様々である。こうしたベテランとビギナー、受講者が有している専門性の違いにより、「都道府県研修を

どのレベルで実施すれば良いのか悩む。」といった講師からの声を、度々聞くことがある。ベテラン職員が都道府県研修を受講している大きな要因に、加算要件との関係があることから、今後ベテラン職員の受講は減少していくであろう。将来的に受講者は新任職員が中心となっていくが、そもそも基礎研修は「強度行動障害がある者に対し適切な支援を行う職員の人材育成」を目的とし、実践研修は「適切な障害特性の評価及び支援計画の作成ができる職員の人材育成」を目的とした研修であり、行動障害者支援の基本を学ぶ研修内容となっている。改めて、都道府県研修では新任職員を対象とした研修であることをおさえ、新任職員でも理解がしやすいよう、研修内容や伝え方の工夫が求められる。

なお受講者の中には、研修中に私語を続けていたり、電子ゲームを行うなど、研修態度に課題がある者が少数とはいえ報告されている。この点について再度、都道府県を通じて研修の目的を周知徹底する他、他受講者の研修の妨げにならないよう、遅刻や無断欠席時の対応、禁止事項の明記と発見した場合の対応などを検討しておくことも必要であろう。

2. 情報の共有化とサポート体制の構築

2015年度、「強度行動障害支援者養成研修のページ」(WEB ページ)の運用により都道府県研修に関する必要な情報を全国で共有化し、更に「サポートデスク」の運用により、都道府県研修の円滑な開催を補助すると共に、研修内容の担保につながった。

また都道府県研修関係者や強度行動障害支援従事者からの要望を受け、「出会える・学べる 実践事例研究会」を開催した。本研究会は都道府県研修における「【講義】実践報告」のモデルという要素と、都道府県研修の上位研修のモデルという要素を含んでいる。今日、全国で都道府県研修が積極的に開催されているが、都道府県研修の内容はあくまで行動障害者支援の基礎であり、それだけで強度行動障害者支援のノウハウを習得できるようにはなっていない。その後のOJT(日常の業務につきながら行う教育訓練)やOFF-JT(通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練)といった学びや研修を続けることが大切である。既に都道府県独自の支援者養成研修に取り組

んでいる都道府県が存在するが、そうした独自の研修と都道府県研修の中間的な位置づけとして、事業所同士が出会い、学び合う、より直接支援と結びついた専門性の高い研修が全国で開催されることが期待される(図3)。

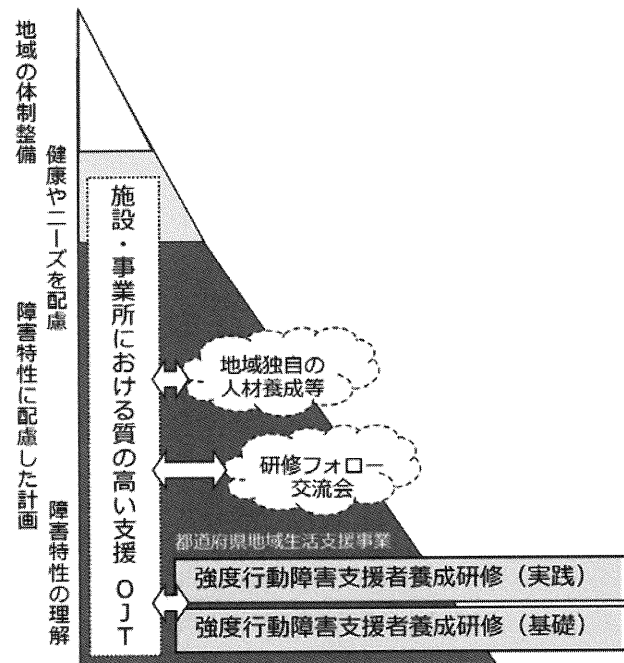


図3 都道府県における継続的な強度行動支援者養成研修の概念図

E. 結論

1. 2013年度以降、強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)及び(実践研修)修了者数は毎年増加していることから、行動障害者支援の基礎的な理解は、全国的な広がりを見せていることがうかがえる。
2. 都道府県独自の強度行動障害者支援従事者の育成(学習会や研修)や、都道府県独自の強度行動障害者へのサービス事業が展開される等、積極的な強度行動障害(児)者支援の取り組みが、少しずつ増加している。
3. 「強度行動障害支援者養成研修のページ」(WEB ページ)や「サポートデスク」の運用、また都道府県研修の実施状況等に関する調査を継続することで、円滑な都道府県研修の実施と、研修内容の担保に繋がることが期待される。

4. 都道府県研修では新任職員を想定し、理解がしやすいよう、より平易な研修内容の検討、事前研修、さらに伝え方を工夫する必要があるとの意見が多く寄せられた。
5. 地域において強度行動障害者に適切な支援ができる体制作りには、強度行動障害者支援者養成研修の内容とサービス管理責任者や相談支援現任者研修等と調整する必要がある、さらに現在地域で独自に取り組んでいる成果を検証する必要がある。

F. 参考文献

- 1) 三重県 | 障害者相談支援センター：三重県強度行動障害支援者養成研修 (<http://www.pref.mie.lg.jp/SHOGAIC/HP/90471000001.htm>)

(資料1)

- a. 調査票【都道府県における「強度行動障害支援者養成研修」実施状況に関する調査】
- b. WEB【強度行動障害支援者養成研修のページ】
- c. チラシ【「出会える・学べる 実践事例研究会」
平成27年度強度行動障害支援者養成研修
フォローアップ研修】

都道府県における「強度行動障害支援者養成研修」実施状況に関する調査

| | | | |
|-------|--|--------------|--|
| 都道府県名 | | 回答者氏名 | |
| 所属部署名 | | 連絡先 (TEL) | |

I. 貴都道府県で平成27年度の強度行動障害支援者養成研修の実施状況について該当項目にチェック(☑)をしてください。

| 基礎(キソ)研修 | 実践(ジッセン)研修 |
|---|---|
| ①平成27年度の基礎研修の実施状況について | ①平成27年度の実践研修の実施状況について |
| <input type="checkbox"/> 実施した(予定含む)⇒ 日程・修了者数を記載して下さい 【日程： (修了者数 人)】 【日程： (修了者数 人)】 【日程： (修了者数 人)】 【日程： (修了者数 人)】 <input type="checkbox"/> 実施しない | <input type="checkbox"/> 実施した(予定含む)⇒ 日程・修了者数を記載して下さい 【日程： (修了者数 人)】 【日程： (修了者数 人)】 【日程： (修了者数 人)】 【日程： (修了者数 人)】 <input type="checkbox"/> 実施しない |
| ②研修の 実施主体 について | ②研修の 実施主体 について |
| <input type="checkbox"/> 都道府県 <input type="checkbox"/> 指定事業者【指定】 <input type="checkbox"/> 委託事業者【委託】 <input type="checkbox"/> その他() | <input type="checkbox"/> 都道府県 <input type="checkbox"/> 指定事業者【指定】 <input type="checkbox"/> 委託事業者【委託】 <input type="checkbox"/> その他() |
| ③ 実施体制 について | ③ 実施体制 について |
| <input type="checkbox"/> 都道府県が企画・運営の全てを行う <input type="checkbox"/> 事業者と都道府県とが、共同で企画・運営を行う <input type="checkbox"/> 事業者が企画・運営の全てを行う <input type="checkbox"/> その他() | <input type="checkbox"/> 都道府県が企画・運営の全てを行う <input type="checkbox"/> 事業者と都道府県とが、共同で企画・運営を行う <input type="checkbox"/> 事業者が企画・運営の全てを行う <input type="checkbox"/> その他() |

II. 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修・実践研修)の企画・運営に関して、貴都道府県での独自の工夫(例:開催日程を分割する、対象者に要件をつける、独自の研修と組み合わせる、など)があれば、教えて下さい。

III. その他に平成27年度から開始した、貴都道府県の支援者の養成研修や学習会等がありましたら教えて下さい。

FAX : 027-320-1391 送付先: 国立のぞみの園研究部(担当: 信原・村岡)
 ※ FAX送信の際、送付状(表紙)は不要です。本紙のみFAXしてください。

強度行動障害支援者養成研修のページ

強度行動障害とは

強度行動障害とは、自分の体を叩く、食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど「本人の健康を著しく損ねる行動」、他人を叩く、物を壊す、大泣き奇声が何時間も続くなど「周囲のくらしに著しい影響を及ぼす行動」が高い頻度で継続的に発生し、特別に配慮された支援が必要な状態のことを言います。そして、強度行動障害支援者養成研修とは、障害者総合支援法における都道府県地域生活支援事業です。平成25年よりスタートした本研修においては、全国の障害福祉施設や事業所等の関係者が、強度行動障害のある人に対して、協力しながら「共通の言語」で支援を行えることを目指しています。

このページは、強度行動障害支援者養成研修(指導者研修)ならびに都道府県で開催される強度行動障害支援者養成研修に関する情報交換を目的に作成しました。「独立行政法人重慶知的障害者総合施設のぞみの園」事業企画局研究部が運営しています。

[お問い合わせ\(情報提供\)はこちら](#)

検索

インフォメーション RSS

平成28年度強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践研修(指導者研修))の開催日程について

2016年4月8日 [詳細内容](#)

平成28年度の強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践研修(指導者研修))を下記の日程で行います。【基礎研修(…

[この記事を読む](#)

平成26年度障害者総合福祉推進事業のまとめの資料

2015年10月16日 [その他](#)

平成27年10月16日(金)、平成26年度障害者総合福祉推進事業報告会が厚生労働省において開催されました。昨年…

[この記事を読む](#)

「強度行動障害支援者養成研修のプログラム作成の経過と今後」…のぞみの園ニュースレター

2015年10月15日 [詳細内容](#)

のぞみの園では、年に4回ニュースレターを発行しています。のぞみの園の実践や研究成果等を分かりやすく、広く多くの人…

[この記事を読む](#)

強度行動障害に対する全国各地の取り組み(2) 福岡市

2015年10月10日 [地域の取組](#)

福岡県福岡市では、本年度より強度行動障害のある人の生活の立て直しに関して、集中的支援を行う本格的な事業を開始し…

[この記事を読む](#)

強度行動障害に対する全国各地の取り組み(1) 横浜市

2015年10月10日 [地域の取組](#)

神奈川県横浜市では、第3期障害者プラン(平成27年度～32年度)「基本目標とテーマ」の「テーマ2」に含む。そして…

[この記事を読む](#)

アーカイブ

- ・ [2016年4月\(1\)](#)
- ・ [2015年10月\(5\)](#)
- ・ [2015年8月\(4\)](#)
- ・ [2015年7月\(13\)](#)
- ・ [2015年6月\(5\)](#)

PAGETOP

強度行動障害支援者養成研修のページ



出会える・学べる 実践事例研究会

平成27年度 強度行動障害支援者養成研修 フォローアップ研修

強度行動障害のある人が「虐待を受けている」というニュースが絶えません。また、その行動障害ゆえに、サービス提供を「拒否され」、途方に暮れる家族からの訴えも一向に減りません。

強度行動障害のある人の実態とその支援の在り方に関して、私たちの国で研究がはじまったのは25年以上前のことです。現在に至るまで継続的に研究が続けられており、いくつもの支援の現場で共通する、効果的な支援方法が存在することがわかってきました。しかし残念ながら、このような支援方法とその背景にある仮説・理論について、障害福祉の実践現場のすべてに広まっているわけではありません。今は、一部の先駆的な障害福祉サービス事業所や施設で、興味関心の高い優秀な人材だけが強度行動障害者の支援を行う時代ではありません。生まれ育った身近な地域で、適切な支援を受けながら、安心して快適に暮らせる環境づくりが大切になります。

厚生労働省では、強度行動障害のある人の支援のあり方について、障害福祉サービスに携わる広く・多くの人材に学んでもらう場として、平成25年度より強度行動障害支援者養成研修のカリキュラム構築に着手しています（現在、都道府県地域生活支援事業に位置づけられています）。また、平成27年度の障害福祉サービス等報酬改定では、施設入所支援、短期入所、共同生活援助の「重度障害者支援加算」において、この強度行動障害支援者養成研修の修了や障害特性に配慮した詳細な支援計画シート、記録が必須となりました。在宅生活している人向けの行動援護や重度訪問介護の提供においても、同研修の修了が求められています。強度行動障害支援者養成研修は、平成30年度までには、全国で受講者2万人以上受け止める規模で開催されることとなります。

強度行動障害支援者養成研修は、強度行動障害のある人の支援に関する「基本的な考え方」と「知識」を学んでもらうと同時に、各地域で実際に行われている支援の実践事例にも触れてもらうことになっています。指導者研修を実施しているのぞみの園には、同研修の企画担当者から「実践事例を報告してくれる事業所や人材がない」「研修で求める質の実践はどんなものか」「他の地域ではどのような実践が行われているのか」といった実践事例に関する問合せが多数寄せられていました。一方で、研修修了後の受講者の反応として、「実践報告のおかげで具体的に理解できた」といった感想も少なくありません。今回の実践事例研究会は、全国の強度行動障害児者支援の優れた実践事例に数多く触れ、どのようなポイントで研修に組み込んでいくかを考える場として企画しました。パワーポイント等を使った事例発表、ポスター形式の発表と意見交換、さらには支援経験豊富な講師からのコメント等、障害福祉サービスにおける強度行動障害児者支援のあり方を、事例を通して研究・検討したいと考えています。

■日時 平成27年9月25日（金）

受付：9:30 プログラム：10:00-16:00

■会場 群馬県社会福祉総合センター（203会議室）

〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町13-12
TEL 027-255-6000

■主催（独）国立のぞみの園 事業企画部研修係

TEL 027-320-1357 FAX 027-320-1368
担当 安立（あだち）

■定員 100人

■参加費 無料

本研修は平成27年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）「強度行動障害支援者養成研修の評価及び改善に関する研究」の一環として実施するものです。

《プログラム（案）》

- 10:00-10:10 開会・ごあいさつ
- 10:10-10:30 実践・事例研修会の主旨について
- 10:30-11:30 実践・事例報告（2件）
- 11:30-12:30 実践・事例報告（2件）
- 12:30-14:00 昼食・ポスターセッション
- 14:00-15:00 実践・事例報告（2件）
- 15:00-15:45 全体の意見交換・講評
- 15:45-16:00 まとめ・閉会

事例報告とポスター含め、10件以上の事例発表を予定しています。当日、都合によりプログラムの一部が変更されるかもしれません。

出会える・学べる 実践事例研究会
 平成27年度 強度行動障害支援者養成研修 フォローアップ研修
参加申込書

FAX

027-320-1368

下記の欄に、お名前、ご所属、ご連絡先等をご記入し、上記の番号にFAXしてください。

お名前： 経験年数：年

ご所属：

住所：

TEL： FAX：

※ 1 ご報告されたい実践事例がございましたら、右の四角の中に○をつけて下さい。

※ 2 昼食（お弁当）を500円でお受けいたします。ご希望の方は○をつけて下さい。

■ **申込締切：9月10日（木）**

FAXによる申込受付後、速やかに受講確認書を送付させていただきます。なお、締切日が近くなった段階で、定員以上の申込があった場合は、申し訳ありませんが抽選により選考させていただきます。

■ **お申し込み頂きたい方**

各都道府県等で強度行動障害支援者養成研修の企画・実施に携わっている方、地域で強度行動障害者支援に積極的に取り組んでいる方 他

■ **実践事例の報告受付**

実践事例発表者（ご本人）以外でも申込できます。また、ご報告されたい実践事例がございましたら、右上の四角に○をつけて下さい。事務局からご連絡させていただき、協議させていただきます。



強度行動障害支援者養成研修の評価

強度行動障害支援者養成研修の評価

分担研究者 大原 裕介¹⁾

研究協力者 片桐 公彦²⁾ 福島龍三郎³⁾

1) 北海道医療大学 2) 社会福祉法人みんなでききる 3) 特定非営利活動法人ライフサポートはる

研究要旨

2013 年度より実施されている強度行動障害支援者養成研修は、障害福祉サービス事業所等の支援者に対して行動障害に対する支援の考え方や支援方法について集中的に学ぶ機会を提供することができる内容であり、行動障害を起こしてしまった障害者が引き続き地域で生活していく環境を作るために非常に効果が期待される研修である。また、本研修の受講が重度障害者支援加算等の障害福祉サービス費における加算の要件となっていることにより、多くの現場支援者が受講することが予想されている。このように本研修の仕組みが整備されたことにより、これから全国で広く強度行動障害支援者養成研修が実施されることとなるが、その際に各都道府県で質の高い研修が必要な量で実施されることが重要となる。研修の質を担保し、且つ、実際の支援現場に活かせる内容とするためには、これまでの行動障害に対する研究や実践を踏まえた研修内容であることが重要である。また、確実に都道府県で本研修が実施されるためには、各都道府県での研修開催における課題について明らかにし必要な処置をしていく必要がある。

本研究では厚生労働省のカリキュラムに準じて強度行動障害支援者養成研修のプログラムを再検討し、検討結果を基に研修プログラムとテキストの作成、同プログラムによる強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）の開催と、全国のいくつかの県で同研修を実施し、受講者、及び研修主催者へのアンケート調査、インストラクターからの評価を得て、研修内容の振り返りを行った。受講者へのアンケート結果からは、支援者ケアへのニーズやグループワークの有効性が明らかになった。また、研修主催者へのアンケート結果からは、研修を実施するに当たって研修レベルや講師・インストラクターの確保などに課題があることが明らかになった。インストラクターによるプログラム評価会においては、研修の内容や位置づけ等についての課題が明らかになった。

A. 研究目的

2013 年度より都道府県地域生活支援事業のメニュー項目として「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）」が追加され、翌 2014 年度には「強度行動障害支援者養成研修（実践研修）」が加わり、全国で積極的な研修の開催がなされている。

本研究では、「強度行動障害支援者養成研修（指導者研修）」のプログラム内容について、行動障害についての専門家や実践者等による再検討を行い、検討結果に基づく指導者研修プログラム（全国地域生活支援ネットワーク版）及びテキストの作成、同プログラムによる指導者研修の開催、

その後、全国地域生活支援ネットワーク版プログラムを使用した都道府県での強度行動障害支援者養成研修の開催と同研修受講者へのアンケート調査を行い、研修内容や研修形式が受講者の理解度にどのように結びつくかを明らかにすることを目的とした。

また、都道府県における研修主催者を対象として、本研修を実施したうえでの課題についてアンケートを行うことにより、今後各都道府県においてスムーズに確実に研修が実施されるための方策を明らかにすることを目的とした。併せて、研修内容について指導者研修講師によるプログラ

ム評価会を実施し、研修内容、研修効果等についての考察を行い、専門家・実践家の立場からのプログラムの有効性や課題について明らかにし、現在の強度行動障害支援者養成研修のカリキュラム等についても課題を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. プログラム内容の再検討と実施

プログラム内容の再検討については、NPO 法人全国地域生活支援ネットワークが平成 26 年より実施しているプログラムの再検討の内容を準用することとした。NPO 法人全国地域生活支援ネットワークにおける再検討のメンバーは以下の通りである。(敬称略)

- ・牛谷正人 (社会福祉法人グロー)
- ・大橋一之 (NPO 法人あーど)
- ・大原裕介 (社会福祉法人ゆうゆう)
- ・片桐公彦 (社会福祉法人みんなでいきる)
- ・加藤 潔 (社会福祉法人はるにれの里)
- ・神田 宏 (社会福祉法人やまびこの里)
- ・駒田健一 (株式会社 Straight)
- ・田中正博 (全国手をつなぐ育成会連合会)
- ・肥後祥治 (鹿児島大学)
- ・福島龍三郎 (NPO 法人ライフサポートはる)
- ・真鍋龍司 (社会福祉法人はるにれの里)

併せて、再検討の内容を基に作成した研修プログラムに対応する研修テキストを作成した。

テキストの主な執筆者は以下の通りである。(敬称略)

- ・會田千重 (肥前精神医療センター)
- ・井上雅彦 (鳥取大学)
- ・坂井 聡 (香川大学)
- ・末安民生 (日本精神科看護協会)
- ・曾根直樹 (厚生労働省)
- ・園山繁樹 (筑波大学)
- ・田中正博 (全国手をつなぐ育成会連合会)
- ・肥後祥治 (鹿児島大学)

以上の研修プログラム及び研修テキストを使用して、平成 27 年度に 2 回の指導者研修を実施した。

- ・第 1 回指導者研修 (基礎研修・実践研修)

平成 27 年 8 月 20 日 (木) ~ 23 日 (日)

情報オアシス神田セミナーハウス (基礎研修)

アンケートは各項目ごとにチェック形式で記入し、併せて自由記述で研修全般や研修の準備等に

中央法規ビル多目的ホール (実践研修)

参加者 61 名

- ・第 2 回指導者研修 (基礎研修・実践研修)

平成 28 年 2 月 4 日 (木) ~ 6 日 (土)

大津プリンスホテル (基礎研修・実践研修)

参加者 60 名

当指導者研修を受講した者が各都道府県において同プログラムを使用して実施した強度行動障害支援者養成研修の受講者に対して、研修内容の理解度や満足度等についてアンケートを実施した。

アンケート実施地域及び実施日は以下の通りである。

- ・佐賀県

基礎研修 平成 27 年 11 月 13 日・27 日

実践研修 平成 28 年 1 月 15 日・29 日

- ・愛知県

基礎研修 平成 28 年 1 月 14 日・18 日

実践研修 平成 28 年 2 月 22 日・23 日

アンケートは各講義・演習ごとに満足度と理解度をチェック形式で記入し、併せて自由記述で内容に対する具体的な評価や感想を記入してもらった方法で実施した。また、研修形式についても、それぞれの研修形式ごとに満足度と理解度をチェック形式で記入し、併せて自由記述で研修形式に対する具体的な評価や感想を記入してもらった方法で実施した。最後に、研修全般について「実践してみようと思うか」「事業所の他メンバーに伝えるか」「事業所の支援の質はどうか」という内容についてチェック形式で記入してもらった方法で実施した。

2. 都道府県における強度行動障害支援者養成研修の実施状況と課題を調査

前述の指導者研修を受講した者が同プログラムを使用して実施した強度行動障害支援者養成研修について、実施した主催者に対して、研修全般の満足度や研修を実施する上での準備の難しさや大変さ等についてアンケートを実施した。

アンケート実施地域及び回答者数は以下の通りである。

- ・佐賀県 1 名

- ・愛知県 2 名

- ・新潟県 1 名

- ・山梨県 2 名

について具体的な気づきを記入してもらった方法で実施した。

3. 強度行動障害支援者養成研修のインストラクターによる評価とその分析

指導者研修において講師として携わった専門家及び実践者によるプログラム評価会を開催し、本研修の研修内容、研修効果等についての考察を行い、専門家・実践者の立場からのプログラムの有効性や課題について明らかにした。

プログラム評価会の参加者は次の通りである。

- ・ 會田千重 (肥前精神医療センター)
- ・ 井上雅彦 (鳥取大学)

- ・ 大友愛美 (ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川)
- ・ 片桐公彦 (みんなでききる)
- ・ 神田 宏 (横浜やまびこの里)
- ・ 坂井 聡 (香川大学)
- ・ 末安民生 (日本精神科看護協会)
- ・ 園山繁樹 (筑波大学)
- ・ 田中正博 (全国手をつなぐ育成会連合会)
- ・ 肥後祥治 (鹿児島大学)
- ・ 福島龍三郎 (ライフサポートはる)

C. 研究結果

1. プログラム内容の再検討と実施

(1) 再検討したプログラムの内容

NPO 法人全国地域生活支援ネットワークにおいて、平成 26 年 8 月 9 日、8 月 11 日、11 月 12 日、平成 27 年 4 月 19 日に開催されたプログラム検討会において検討された内容に基づいて組み立てられたプログラムおよび基本的な研修の流れは以下の通りである。プログラムは厚生労働省のカリキュラムに準じて組み立てられている。

(基礎研修)

| | 講義名 | 内 容 |
|--|--|---------------------|
| 講義 0. 5 H <small>知識習得/スクール</small> | 「プロローグ ～強度行動障害のある人についての基本的な理解～」 強度行動障害とは (1) | 強度行動障害とは |
| | | 行動障害のある人への支援のこれまで |
| | | 行動障害のある人が困っていること |
| | | 行動障害への挑戦の意義と必要性 |
| | | 危機管理と緊急時の対応 |
| 演習 1. 0 H <small>体験型演習/グループワーク</small> | 「私たちが困っていること。～感覚の違いを体験しよう～」 行動障害の背景にあるもの (1) | 感覚・知覚の特異性と障害特性 |
| | | ・作業(視覚的な手がかりのあり・なし) |
| | | ・作業(軍手をはめて) |
| | | ・騒がしい環境での聞き取り |
| | | ・狭い視野での活動 |
| 演習 1. 0 H <small>体験型演習/グループワーク</small> | 「わかりにくいんです。～伝わりにくさを体験しよう～」 固有のコミュニケーション (1) | コミュニケーションの理解と表出 |
| | | ・意味の分からない言葉での指示 |
| | | ・視覚と聴覚で違う情報 |
| | | ・わかりにくい提示 |
| | | ・グループ討議・まとめ |
| 講義 1. 0 H <small>知識習得/スクール</small> | 「私たちのこと知ってほしい。～自閉症について～」 強度行動障害とは (2) | 自閉症スペクトラム障害について |
| | | 知的障害/精神障害について |
| 講義 1. 0 H <small>知識習得/スクール</small> | 「ボくらと世界のつながり方～環境を整えることの大切さ～」 構造化 | 支援に必要な環境整備・環境調整 |
| | | 構造化の基本と手法 |
| 演習 1. 5 H <small>体験型演習/グループワーク</small> | 「やりやすくする。～整えられた環境での活動～」 固有のコミュニケーション (2) | 様々なコミュニケーション方法 |
| | | ・本人に伝わりやすい環境と活動 |
| 演習 0. 5 H <small>記述型演習/ 個人ワーク/グループワーク</small> | 「知ることから始めよう。～根拠を持って支援する～」 情報収集とチームプレイの基本 (1) | アセスメントとは |
| | | 情報の入手とその方法 |

| | | |
|------------------------------------|---|--|
| 演習1. 5H 記述型演習/ 個人ワーク・グループワーク | 「本当の理由を考えよう。～冰山モデルで考える～」 行動障害の背景にあるもの(2) | 行動障害を理解する冰山モデル グループ討議/まとめ |
| 講義0. 5H 知識習得/スクール | 「みんなでやろうよ。～チームプレイの大切さ～」 支援の基本的な枠組みと記録 | 支援の基本的な枠組み サービス等利用計画について～支援の基本的プロセス～ 個別支援計画と支援手順書について 記録と情報共有 |
| 演習0. 5H 記述型演習/グループワーク | 「お互いに共有しよう。～記録と情報共有～」 情報収集とチームプレイの基本(2) | 記録とそのまとめ方と情報共有 |
| 講義1. 0H 知識習得/スクール | 「医療と一緒に。～医療と福祉の連携～」 強度行動障害と医療 | 行動障害と医学的な診断 行動障害と医療的アプローチ 福祉と医療の連携 |
| 講義0. 5H 知識習得/スクール | 「その時あなたはどうしますか。～虐待・身体拘束・行動制限の予防は支援の質の向上から～」 虐待防止と身体拘束(1) | 障害者虐待防止法とは 行動障害と虐待 虐待をしない・させないために |
| 講義0. 5H 知識習得/スクール | 「支える仕組み。～制度理解のヒント～」 強度行動障害と制度 | 行動障害のある人を支える制度 |
| 講義1. 0H 事例紹介/スクール | 「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告 | 児童期における支援の実際 成人期における支援の実際 |
| 講義1. 0H 知識習得/スクール | 「ひとりで悩まないで～支援者ケアの大切さ～」 | |

「ひとりで悩まないで～支援者ケアの大切さ～」(講義1. 0H)は独自の内容であり、研修時間数もその分長くなっている。

(実践研修)

| | 講義名 | 内容 |
|------------------------------------|---|--|
| 講義2. 0H 知識習得/スクール | 「行動障害のある人の暮らしを支えるために」 強度行動障害支援の原則 | 地域で行動障害のある人を支えるために 地域で支えるためのチームアプローチ 支援の6つの原則の確認 |
| 演習1. 0H 記述型演習/ 個人ワーク・グループワーク | 「適切な支援を組み立てる(予防モデル)～行動のアセスメント～」 障害特性とアセスメント(1) | 自閉症の特性チェックシートの説明 自閉症の特性チェックシートの記入 |
| 演習1. 0H 記述型演習/ 個人ワーク・グループワーク | 「適切な支援を組み立てる(予防モデル)～行動のアセスメント～」 障害特性とアセスメント(1) | 行動特性のもとになる障害特性シート(ヒントシート)の説明 行動特性のもとになる障害特性シート(ヒントシート)の記入 |
| 演習2. 0H 記述型演習/ 個人ワーク・グループワーク | 「適切な支援を組み立てる(予防モデル)～支援計画シートの作成～」 構造化の考え方と方法(1) | 本人の特性を生かした支援を組み立てる 必要な配慮(構造化)を考える 構造化を活用した支援計画シートの作成 発表・まとめ |

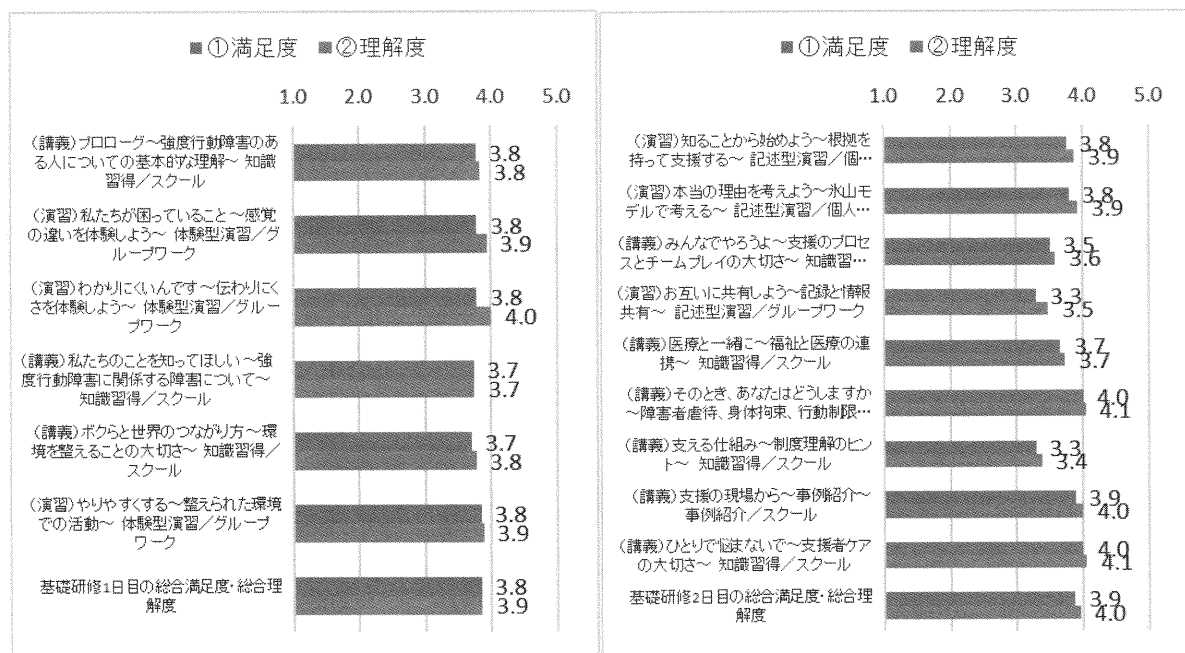
| | | |
|--------------------------------------|---|----------------------------|
| 演習 1. 0 H 記述型演習/ 個人ワーク・グループワーク | 「行動上の課題に対応する（行動障害対応モデル）～記録とアセスメント～」 記録の収集と分析 | 行動記録の説明 |
| | | 行動記録の整理と分類 |
| | | 行動記録に基づく再アセスメントと手順書の修正の説明 |
| 演習 0. 5 H 記述型演習/ 個人ワーク・グループワーク | 「行動上の課題に対応する（行動障害対応モデル）～記録とアセスメント～」 障害特性とアセスメント（2） | 冰山モデルの作成 |
| | | 行動の前後関係から考える |
| | | |
| 演習 1. 5 H 記述型演習/ 個人ワーク・グループワーク | 「行動上の課題に対応する（行動障害対応モデル）～支援手順書の作成～」 構造化の考え方と方法（2） | 本人の特性を生かした支援を組み立てる |
| | | 必要な配慮（構造化）を考える |
| | | 構造化を活用した支援手順書の作成 |
| 講義 1. 5 H 事例紹介/スクール | 「行動障害のある人の生活と支援」 ～行動障害のある人の生活と支援の実際（1）～ | 日中活動（生活介護など）における支援の実際 |
| | | 暮らしの場（家庭やGHや施設など）における支援の実際 |
| | | 外出（行動援護など）における支援の実際 |
| 演習 1. 0 H 記述型演習/グループワーク | 「危機対応と虐待防止」 危機対応と虐待防止 | 危機対応について |
| | | 虐待・拘束を生まない取り組み・環境 |
| 講義 0. 5 H 事例紹介/スクール | 「家族の想い」 ～行動障害のある人の生活と支援の実際（2）～ | 家族の気持ち |
| | | |

(2) 受講者へのアンケートの結果

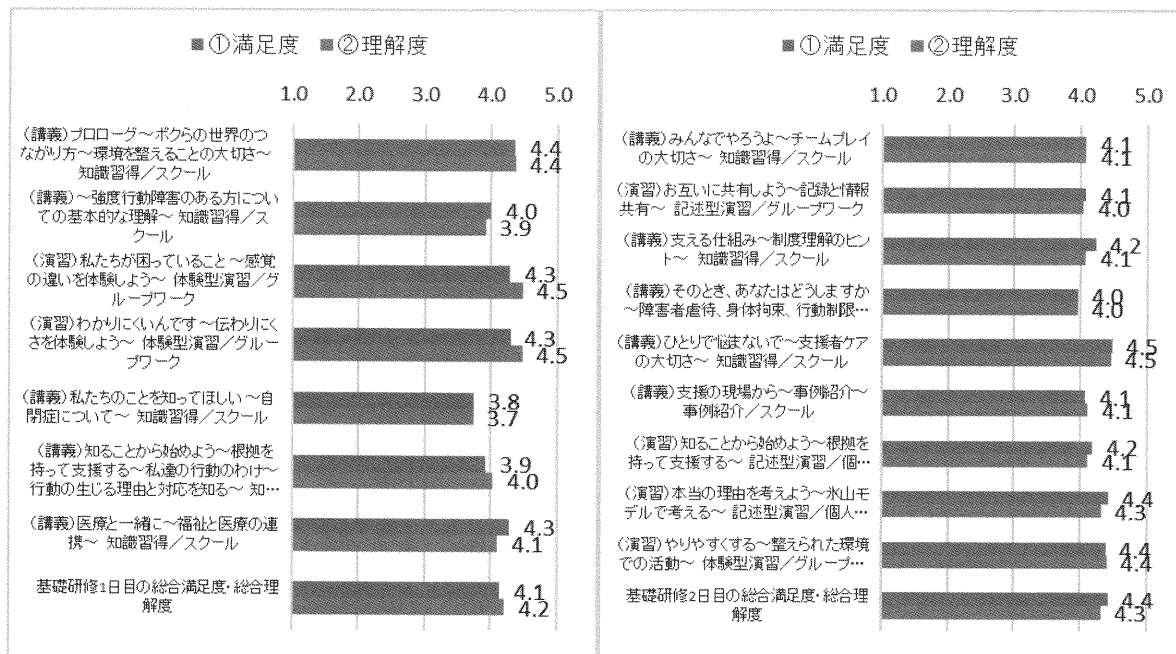
佐賀県および愛知県における同プログラムによる研修の受講者へのアンケートの結果は以下の通りであった。

(基礎研修)「各講義・演習」

佐賀研修

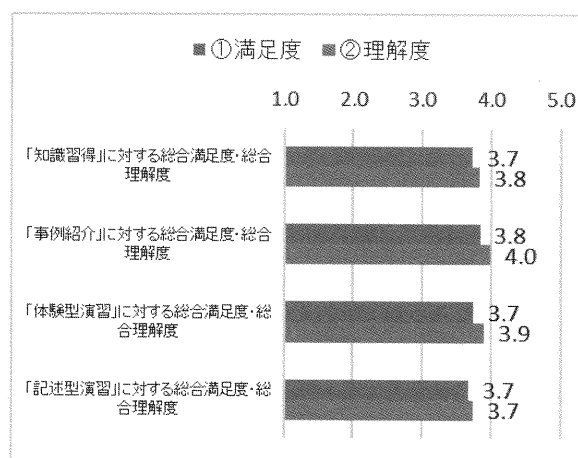


愛知研修

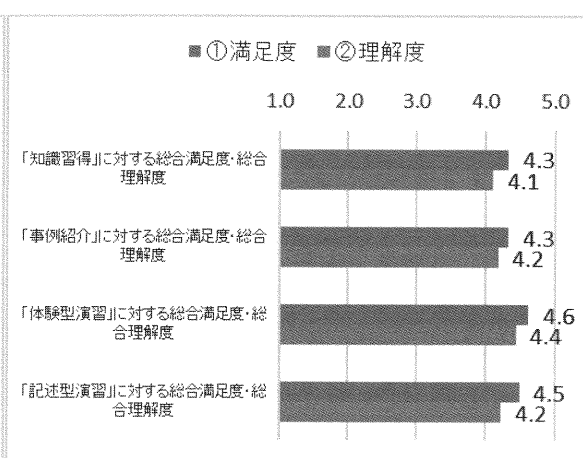


「研修内容」

佐賀研修

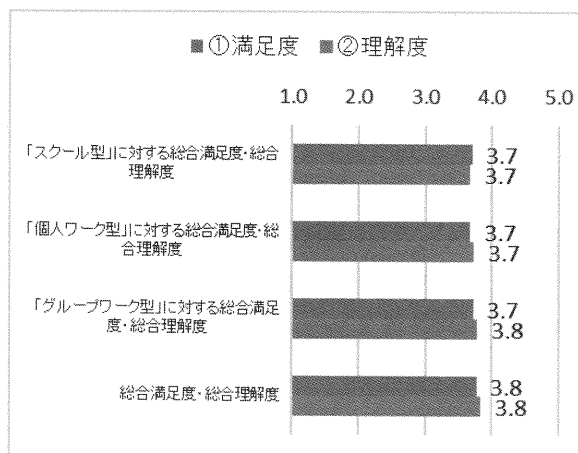


愛知研修

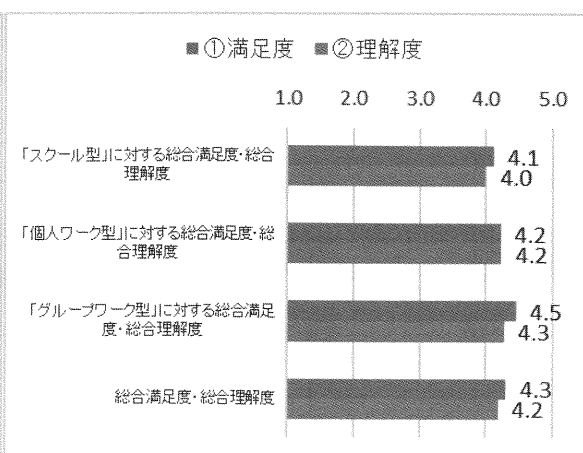


「研修形式」

佐賀研修

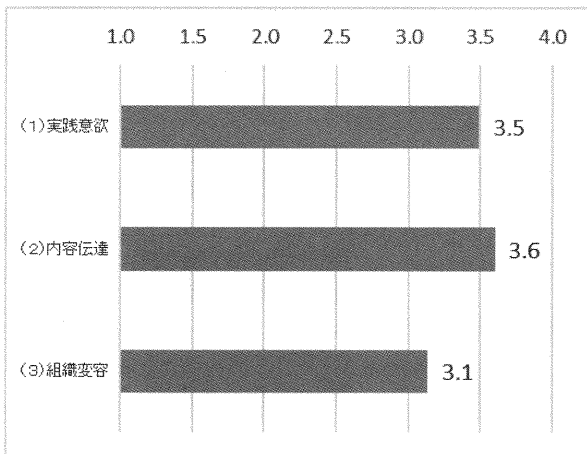


愛知研修

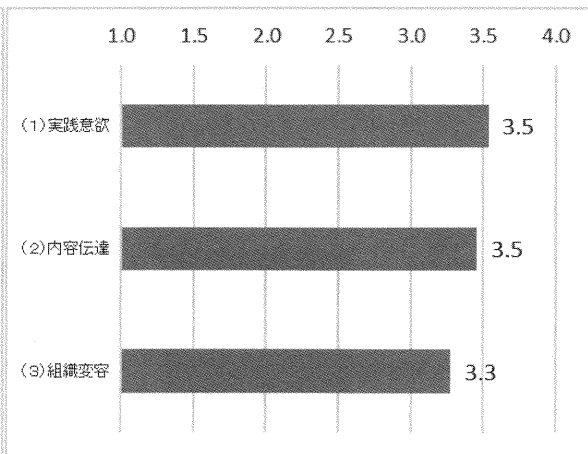


「研修効果」

佐賀研修



愛知研修



研修効果は、カークパトリックによる研修効果測定方法を元にアンケートを実施した。(4点満点)

カークパトリックによる研修効果測定4段階



<カーク・パトリック>

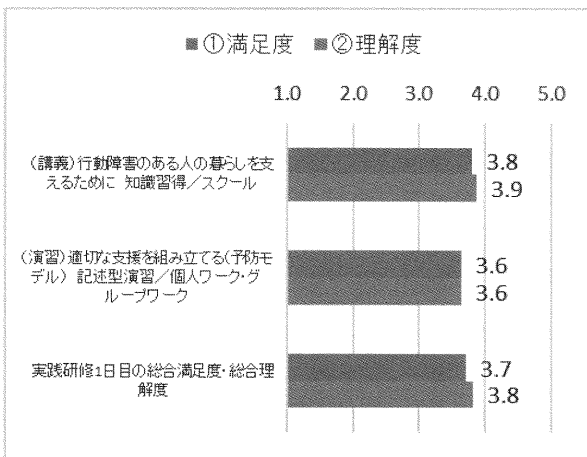
→研修内容の評価

- 反応 (満足度)
- 学習 (理解度)
- 行動 (行動変容)
- 組織への影響度 (伝達・行動)

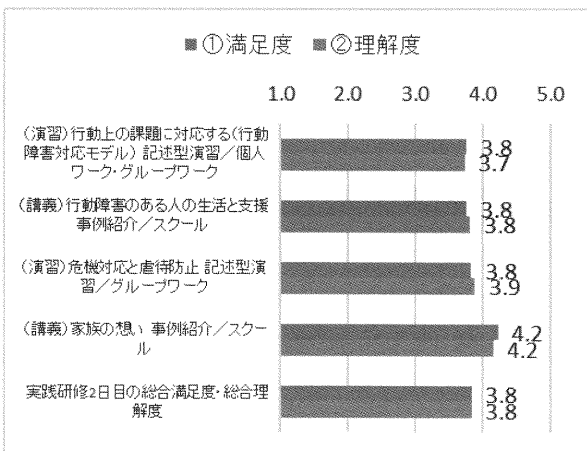
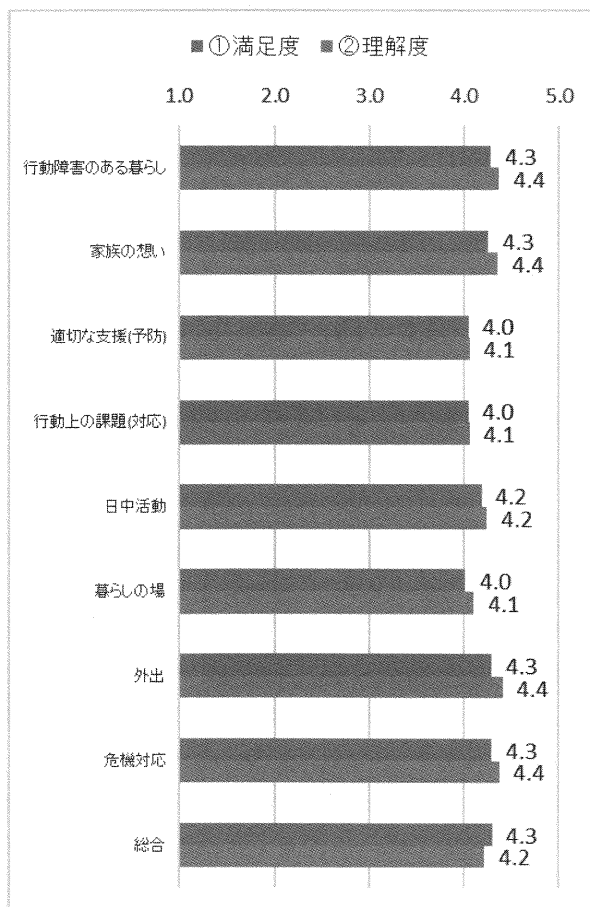
(実践研修)

「各講義・演習」

佐賀研修

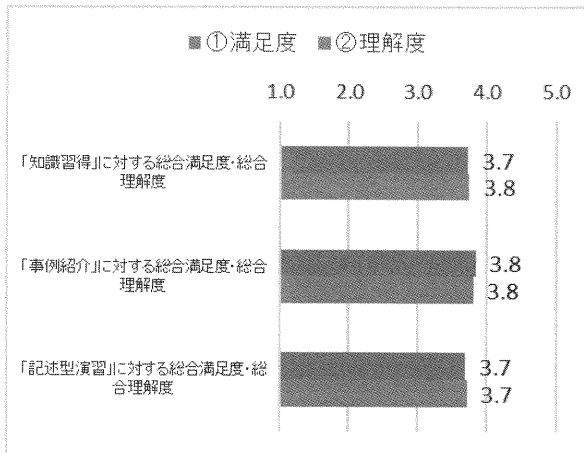


愛知研修

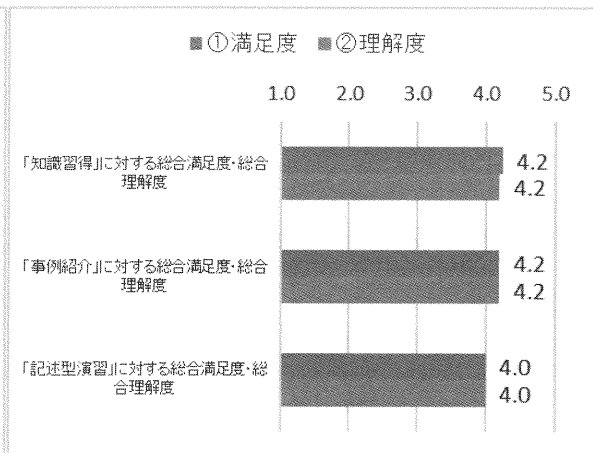


「研修内容」

佐賀研修

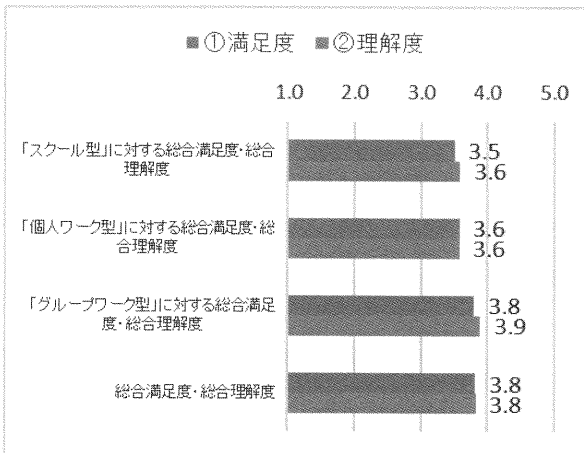


愛知研修

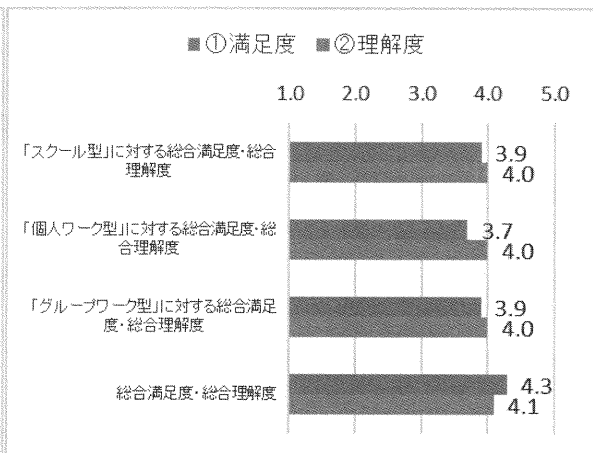


「研修形式」

佐賀研修

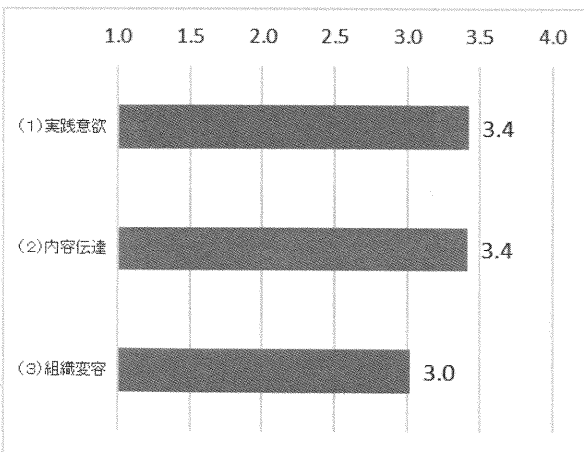


愛知研修

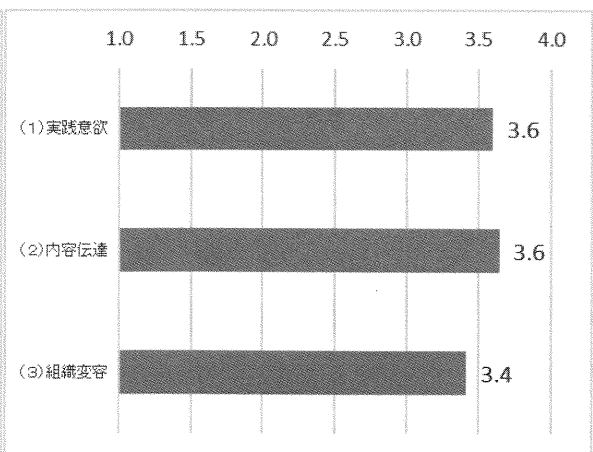


「研修効果」

佐賀研修



愛知研修



※愛知は5点満点で計測していたため、4点満点に換算